

NPO 法人 富士川・夢・未来

窪田真弓さん

「NPO 法人富士川・夢・未来」は、水と緑に溢れた富士川沿岸の峡南地域の活性化を目指し、人々が連携し自らの手で活力ある故郷を作りたいという思いから設立された団体です。地域資源を活かし、地域の人々が動きたくなるような仕組みとして、生産者と事業者のマッチングやイベント運営へのアドバイス等、「峡南地域のつなぎ役」となり、バックアップしています

「富士川・夢・未来」の事業や活動歴を教えてください。

窪田 地域のあらゆる情報を収集してホームページやメディアに提供すると同時に、様々な活動支援をしています。観光や農業支援のひとつとして、峡南地域各地で農業体験「わくわくファームツーリズム事業」を実施しています。農作物の収穫とともに、地元農家さんとの交流や、地元ならではの食を楽しむツーリズム事業です。

今までに市川三郷町でのとうもろこしや大塚にんじん、富士川町のゆず収穫と青ゆず胡椒づくり、身延町の白菜の花芽、幻の曙大豆や南部町のたけのこ収穫体験とお茶を愉しむ企画など、その土地ならではの企画で、みなさんに楽しんでいただきました。中山間地が多く、大規模化できない

峡南地域の農家に協力してもらいますが、収穫体験はいつも繁忙期、事業当日は農産物のお話や収穫方法のみを説明していただく他は、わたしたち、NPO 法人富士川・夢・未来（以下、富士川・夢・未来）が企画立案・募集からはじまり収穫体験運営、食事の手配などをおこない、農家にも無理がない形で、多くの方々に参加していただきます。今後も農業体験の他、市川三郷町の夏祭り「網倉の虫送り体験」や、「下部温泉湯の奥部落散策と源泉足湯ランチ」「どんと焼きで1年の無病息災を祈る」などといった地域の文化を体験するツアーを予定しています。

「峡南ケータリングサービス」という事業は、地元の旬の農産物を使用し、峡南地域の飲食店や直売所などが手作りした地域色豊かな食材を集めて、会議やパーティーなどの会場へお届けするケータリングサービスです。大塚人参や曙大豆など郷土の野菜をはじめとする地元食材を使った総菜や、郷土料理、懐かしいお母さんの味、新規メニューなど峡南の味が楽しめます。100%手作りにこだわったメニューの中から希望に合わせて選ぶことができ、食品それ



窪田真弓さん

ぞれに紹介文も合わせて提供することで、料理や使われている食材、作っているお店が、その場で話題になり、店舗や特産品のPRにもつながっていると思います。

平成25年には、「中部横断道沿線活性化交流促進プロジェクト推進協議会」が本格的に事業を立ち上げるため、山梨県の企業支援型地域雇用創造事業へ申請することになりました。しかし、協議会名では法人格がなく、申請が難しいことから、「富士川・夢・未来」が協議会事業の受け皿として、その申請・受託業務の支援をおこないました。平成23年から3年間、「峡南の歴史と文化を学ぶ会」の方々をはじめとした文化活動に携わる地域の方々とともに、文化庁から受託した「富士川町伝統文化活用事業」では、事務局として申請の手続きやパンフレットの作成などを担当しました。こうした助成金などの諸手続きのサポートも行っています。最近では、峡南地域の特産品を集めて全国にお届けするネットショップ「峡南ゆめ市場」を立ち上げて、現在構築中です。

富士川・夢・未来に参加するきっかけを教えてください。

窪田 以前、他のNPO法人に所属していたとき、経済産業省の受託事業を申請することになりましたが、当時の私は、事業計画とか事業の組み立て方などまったくの素人でした。そのため、様々な人々を人から人へと紹介していただき、たくさんの指導・支援を受け、苦労を重ねてなんとか申請書を書いて受託することができました。

この事業が元で今の理事長と知り合い、後に「富士川・夢・未来」に誘っていただいたのです。あの頃の経験のおかげで今の自分のスキルがあるのだと思います。事業を受託するノウハウも覚えましたし、営業の仕方も企業の営業担当の方と一緒に動いたときに学びました。

今も支援してくださっている事業者の方に、「事業は、

自分の利益だけでなく、関わった人たちみんなにとって良いことがないと成功しない。まず、それを目指さないとみんなの協力も得られない。」とアドバイスいただきました。その言葉は今一番活かされていると実感しています。富士川・夢・未来の事務局を頼まれたときも、「富士川・夢・未来が大きくなるのではなく、地元の人が主役で、やる気になる事業をめざす」と理事長からお聞きしました。

『地域活性化』『地元の情報発信』『地域の資源を磨き上げる』が私たちの事業のキーワードですが、最初は何をしたら良いのかまったくわかりませんでした。とにかく情報発信かと考え、地域の方々のところを飛び回りました。地域活性化には観光の活性化が必要ですが、何の知識もありませんでしたので、とりあえず、山梨県や大学などが主催している観光とか地域活性化のセミナーや講演会には軒並み参加しました。講師や関係者と名刺交換をしたら必ず全員にメールして、遊びに来て良いと言ってくれた人には、県や国の人にもどんどん会いに行きました。言ってみればこれも地域の営業活動です。地元の小さなお祭りなどにも積極的に取材に行ってホームページに掲載しながら人脈作りをしていきました。



農業収穫体験の様子

峡南地域の活性化について大事なポイントは何でしょう。

窪田 この地域は、中部横断道が完成したらストロー現象で衰退する恐れがあると言われていました。地域活性化には、経済活動を活性化しなければということで、最初はわからないなりに観光による活性化だと考えて、観光資源・歴史文化に目を向けて情報発信をおこなってきました。しかし事業を進め、地域の状況を見ていくと、峡南地域は農業も魅力がある資源だと感じました。今の活動は農業支援にも力を入れています。農家が困っていることや、今後実施したいことなど、実態や要望を洗い出して、新しい事業アイデアを考える段階までをフォローする事業も山梨県峡南農務事務所とともに実施しています。この事業の中で、隣り合った地区で農業活動を実施しているグループ同士の情報交流がないということに気づき、交流会を企画しました。この交流会で隣のグループがこんなことをしている、こんなことに困っていると知ること、刺激を受けて自分たちも新たな方向性を考えようと、やる気を起こすきっかけとなっています。

また、地域のお年寄りたちが、家の前の小さな畑で一生涯懸命作って、近所に配ったりしている農作物を集配して販売所で売れば、いくらかの収入にもなるし張り合いも出る。そういった、生き甲斐作りとしての農業の支援というのも

必要だと地域からの声も聞いており、今、知恵を絞っています。

今まで活動してきて女性として思うことなどありますか。

窪田 地元の会議などでも、ほとんどは男性ばかりなのですが、女性がメンバーに入っても良いと思います。しかし、男性だけがいい、女性だけがいい、会議やグループ、生活も仕事もそうですが、多様性がある良いので、それだからダメだとは思っていません。私は、子どもが小さい頃から外に出て活動に参加し始めてしまったので、夫が子どもの面倒をよく見てくれました。しかしたまに「公園に子どもを連れて行っても母親ばかりで男は自分一人だ」と愚痴をこぼすこともあり、申し訳なかったとも思います。今でこそ夫の会社でもイクメンと言っていますが、うちがイクメンの走りよね！なんて言っています。(笑) 地域活動に専念できるのも、パートナーの協力があるからできる場合もあるので、難しい部分もありますね。

最後にこれからの展望などをお聞かせください。

窪田 最初の仕掛けは、富士川・夢・未来も協力して計画し、その後は継続してみなさんがそれぞれがんばって継続できるような事業が多くなると良いと考えています。峡南地域にとどまらず、地域間連携にも力を入れていきたいですし、みなさんがやる気になって、ここに居て良かったと思ってもらえるようになれば、周りから見ても魅力的な地域になるはず。となりの部落の人・となりの町・山梨県内・山梨県外とまず近くから外に向かって、峡南地域に魅力を感じる人が増え、「峡南地域ってこんなところすごいわね」と口コミで地域の魅力が発信される。観光もそんなひろがり活性化したらと思、県内からの交流を始めています。外の人から地域の資源、たとえば祭りを褒められると、「うちの祭りってすごいわね」と気づきます。そのことから自信が生まれ、さらに資源を磨こうと努力します。

農業も美味しい農産物に対して同じことが言えます。そういった今ある資源のすばらしさに気づき、自信をもって大切に、さらに磨き上げる。いろいろな人とつながり、連携して情報発信や、新しい事業を始めて、それが続いていくのが理想です。極端なことを言えば、このNPOが無くても、地域が活性化して自立して動いていけるのが目標でしょうか。そうなったら私は、富士川・夢・未来で運営している地域コミュニティーカフェだけやります。(笑)